

令和3年度 第2回苫小牧市子ども・子育て審議会（書面会議） 委員意見

- 議事（1）第2期苫小牧市子ども・子育て支援事業計画に基づく確保方策の見通しについて
- （2）令和4年度特定教育・保育施設等の確認に係る利用定員の設定について
- （3）今後のスケジュールについて

機関名：北洋大学
氏名：佐藤 郁子
意見 資料1・2及び説明資料により、現状や問題点がわかりました。解決案・策、問題の要因なども、実数（超過受入人数他）により、明確になりました。 資料3により、「第2期苫小牧市子ども・子育て支援事業計画」確定までの流れも理解できました。様々な準備等のため、お忙しくなると存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。

機関名：北海道私立幼稚園協会苫小牧・日高支部
氏名：青山 邦子
意見 （1）ソフト面における対策の保育士の確保が前提とあるが、保育士の確保の為の方策はあるのか。もし、あるとすればどのようなものなのか。なければ3号の受入増は難しいものになるのか。 ⇒ <u>保育所等に勤務していない保育士資格を有する方に対し、就職促進のための研修等を実施する潜在保育士確保事業や、保育士資格を有していない方を保育に係る周辺業務に活用し、保育士の負担軽減を図るための保育体制強化事業等の方策を行っておりますが、保育士の確保がなされなければ3号の定員増は難しくなります。</u> （2）1号について、令和3年度の受入実績は目標値よりも下回っているが、令和4年度の利用定員（案）では88名の増である。増やすことでの問題はないのか。 ⇒ <u>1号利用定員増の内、85名が私学助成幼稚園が新制度幼稚園に移行することに伴い利用定員を設定したことによるものなので、実質的な1号利用定員の増は3名のみであるため、問題はありません。</u> （3）特にありません。

機関名：苫小牧市法人保育園協議会
氏名：遠藤 明代
<p>意見</p> <p>(1) についてですが、ハード面では確かに低年齢児の待機が多いため受皿をとお考えでしょうが、小規模保育所の容易な増設にはあまり賛成できません。認定こども園での一部低年齢受け入れを促進していただけないのか、再度検討や基本計画を考えてみる必要があるのではと思っております。</p> <p>(2) 現在でも保育士の確保に苦勞されている施設が多く、定員を超過で受けたくても労働力が伴わなければ無理なことです。苫小牧市でも本格的に保育士養成校を立ち上げたり、北洋大学等での福祉学科創設など、苫小牧市としても保育士の養成を真剣に考える時が来ているのではないのでしょうか。</p> <p>※日本の保育所設置基準である最低基準の保育士配置数の見直しや、定員数での単価設定の在り方、利用時間の単価の格差など多くの問題を抱えていることにも注目しなければならないと感じています。</p>

機関名：苫小牧市子ども会育成連絡協議会
氏名：佐藤 守
<p>意見</p> <p>保育士不足が1番の問題だと思いますので、国・道・他市でもいろいろな対策を実施していると思いますが、苫小牧市独自の対策があれば教えてください。</p> <p><u>⇒保育所等に勤務していない保育士資格を有する方に対し、就職促進のための研修等を実施する潜在保育士確保事業や、保育士資格を有していない方を保育に係る周辺業務に活用し、保育士の負担軽減を図るための保育体制強化事業等の方策を行っております。</u></p> <p>厚生労働省の調査によると、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育士養成施設卒業者の半数が保育士以外に就職している</li> <li>2. 保育所に就職して5年未満に半数以上が退職している</li> <li>3. 保育士の就職を希望しない理由が解消されれば、保育士の就業希望者が60%いることが記載されていました。</li> </ol> <p>希望しない理由・退職した理由は、賃金が希望と合わない、勤務時間が長い、休日出勤が多い・休暇の保障がない、風通しの良い職場ではなかった、保護者対応が大変だった、適切な人事評価がされていない</p> <p>苫小牧市の保育士の方々も同じなのでしょうが、苫小牧市の調査報告があれば、教えてください。</p> <p><u>⇒本市独自で調査はしていませんが、市内の各施設からは、概ね上記と同じ理由で離職する保育士が多いとの情報をいただいております。</u></p>

機関名：苫小牧市PTA連合会
氏名：鈴木 亜沙美
意見 特にありません。

機関名：苫小牧市小学校長会
氏名：平石 崇広
意見 特に意見はありません。同意いたします。 今後も利用者のニーズを見越し、保育士の確保を進めていただければと思います。

機関名：苫小牧市医師会
氏名：小原 敏生
意見 就園児の様々な問題の内、発達障がいの子どもの療育で集団保育の中での発達の促しの大切な場として保育園・幼稚園の位置づけは高く重要で、発達や行動の問題のため保育に手がかかる児の割合は10-15%を占めると推測され、保育士不足の現状と保育に手のかかる児に対応する質的な問題と合わせた定員の設定に対する考えが必要と考えます。最大認定定員数を行政が設定・確保した定員とかんがえるとすれば、利用定員は実際の保育に手がかかる児を含めた質的な面を考慮した定員ということかと思いましたが、手のかかる児を集約して幼稚園に集めることは行われていますが、行政として利用定員を評価したときに、保育に手のかかる児の定員は充足されているのか、利用定員を減じて質的に担保してその上で全体の定員を充足を考えるような行政としての方向性があるのか、別枠の仕組みなど考えているのか意見を聞きたい。 <u>⇒認可定員は、施設の設備や面積等に応じて認可基準をみたしていると認められた定員で、最大受入能力の意味合いが強いものとなっているのに対し、利用定員はあくまでも運営上の理由で設定されるものとなっております。利用定員が少ないほど園児一人当たりの補助単価が大きくなる仕組みとなっております、収益を上げるためには利用定員が少ない方がよいのですが、実態よりも利用定員が少なくしすぎると運営費補助の減算を受けることとなるため、実態に合わせた利用定員を設定する必要があります。</u> <u>したがって、利用定員については、「保育に手のかかる児」を考慮した設定とはなってはおりません。</u> <u>また、本市では「手のかかる児」の集約化は行っている訳ではなく、利用者の希望に応じて各施設で受入について判断いただいている現状にあります。</u> <u>国の制度上も「手のかかる児」について別枠で定員を設定したり、全体の利用定員を減らすことで「手のかかる児」への対応を充足させるような方向性とはなっておりません。</u> <u>なお、「手のかかる児」の受入に対しては、施設への運営費補助の加算や北海道からの補助金を受けられる仕組みとなっておりますので、それらの支援をご活用いただくことで、受入を進めていただけるよう、各施設にご対応いただいておりますので、この対応を継続していくよう考えております。</u>

機関名：苫小牧市民生委員児童委員協議会
氏 名：大村 千佳
<p>意 見</p> <p>(1) 見通しについては資料を見てよく理解できました。目標を達成するためには保育士不足を解消する方策も必要かと思います。</p> <p>(2) 利用定員については、変更事由も適切で、利用定員（案）も適切であると考えます。</p> <p>(3) 今後のスケジュールについては、予定表の日程でよいと思います。</p>

機関名：苫小牧市女性団体連絡協議会
氏 名：宮川 美代子
<p>意 見</p> <p>初めてのため、勉強させていただきます。よろしくお願いします。</p>

機関名：苫小牧市ファミリー・サポート・センター
氏 名：岡田 直子
<p>意 見</p> <p>保育施設では、新型コロナにより、今までとは違って子どもへの接し方や対応、気遣いなど、預かり面で注意しなければならないことがたくさんあり、大変だと思います。</p> <p>0歳児は令和6年度を目標に、1・2歳児は令和4年度を目標に入所待ちの児童が解消できるように目標が掲げられていますので、そのようになるよう願います。また、保育士さんも増えることを願います。</p>

機関名：苫小牧商工会議所
氏名：末松 仁
<p>意見</p> <p>経済的あるいは所得の格差はいつの時代にも存在しますが、現実にも子どもを産み育てる社会的な環境が十分に整っているかに関しては、若い子育て世代にとって大変厳しい思いをしている人が多く存在しているように感じます。</p> <p>一例として、夫婦で共働きをしている家庭の場合、子どもを産み育てるスタートの段階で保育園の入所を待つ間、両親の現在と将来に得るであろう所得を考慮して、正規社員で働いている母親がやむなく退職せざるを得ないような状況が発生しているケースをよく耳にします。</p> <p>旧来の家族制度や夫婦の役割分担などの文化風土の影響が、社会に残っていることも原因だと思いますが、子ども達にとって社会という存在が大きなゆりかごであり、一人一人の存在が地域や社会を豊かにしていく原動力として成長していくことが、社会全体にとってより大きな幸福をもたらすことに着目したいと感じています。そして、一定のスキルを有した人材が、退職することによって生じる社会的損失に関しても、もっと注視していかなければならないように思います。</p> <p>さらに、子ども達を預かる保育士の資格は一生のものであり、施設の人手不足を解消するためにベテランやリタイアした資格者の再就職を促すとともに、復帰プログラムや制度的な支援策、パートタイムやフレックスタイムなど多様な働き方と受け入れ態勢を提示することも重要だと考えます。</p> <p>一方、受け入れ児の増減でリスクを抱えるであろう保育園の負担を公的に調整・緩和する制度を創設するなど、子育て家庭の需要に応じたフレキシブルで余裕を持った受け入れ態勢も必要ではないかと思えます。</p> <p>家庭におけるストレスで虐待を生み出すことのないような、監視というよりも緩やかな人間関係の中で、子ども達にとってより良い環境を提供できる包括的な政策を進める必要があるように感じます。政策として位置付けるには、そのための財源が必要となりますので、子ども達の成長は社会の財産であるという意識が、市民の間に広く醸成されていくことも必要だと考えます。</p> <p>このような流れは、岸田首相の「新しい資本主義」の根幹である「非財務情報」の一要素として、今後、地域社会や企業の価値創造とも通底していくように思われます。</p>

機関名：連合北海道苫小牧地区連合
氏名：山上 晃
<p>意見</p> <p>3号認定子どもの推移をみると、0歳児の人口が減少傾向にあるにもかかわらず、入所希望者が増加の傾向にあります。これは、若いご夫婦が子育てをしながらも生活基盤を作るために共稼ぎをしなければならない経済的な環境にある事や、保育無償化の制度のお陰で預けやすい環境になっている事など、さまざまな要因が考えられます。</p> <p>他方では、確保方策の見通しで説明されております様に保育士さんお一人が保育出来るお子さんの数は0歳児では3人が限界となっており、お預けを希望する側の需要と受け入れする側の供給のバランス調整は今後の課題となるかと思えます。</p> <p>また、昨今のコロナ禍の中では、特にオミクロン株の特性として、家族感染の確率が高く、感染がわからない中での幼稚園・保育園への通園で保育士の方への感染確率は高くなります。いろんな面でのケアが必要かと思えます。</p>

機関名：苫小牧青年会議所
氏名：大津山 泰斗
意見 私も子を持つ親として、今後の生活に多くの期待と不安があります。 苫小牧市として様々な活動をされているとは思いますが、それを認知している市民は限定的であり、もっとより広く周知を図れることができれば苫小牧の活性化の一助にもなるのではないかと考えております。

機関名：公募委員
氏名：三成 有香
意見 (1) 認定こども園に0歳児クラスから入所させていただいている保護者の立場から、0歳児入所待ち解消に向けての取組みは大変ありがたいと思っています。方策として小規模保育施設の増設が進められていますが、当事者として乳幼児が園庭や広いホールで思いっきり身体を動かす環境があると更に充実した園生活が送れると感じていますので、6年度以降は受入枠を確保した上で、市民のニーズに合う保育施設を選択できるよう取組みを進めていただきたいです。 病児保育事業につきましても、4年度には施設が2か所増えるとのことですが、0歳児入所数が拡充するとともに病児保育の利用ニーズも増加することが予測されるため、さらなる施設確保をご検討いただければと思います。 まだまだコロナ禍ですが、子ども達にとっての良質な環境づくりを引き続きよろしく願いいたします。

機関名：公募委員
氏名：辻川 恵美
意見 特にありません。